令和5年度　小松市立高等学校　学校評価

	重点事項		具体的取組	主担当	現　状	評価の観点	達成度判断基準	取り組みの現状と今後の方向	中間評価	最終評価	分析（成果と課題）と次年度へ向けて	判定基準	備考
1	「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善に努め、確かな学力の育成を図り、進路実現につなげる。その際、ICT機器を有効に活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。	1	**「主体的・対話的で深い学び」を目指し、進路実現につながる学習目標の設定をし、主体的に学習を進める態度を育む。**	教務課 各学年	進路を実現するのに十分な学習時間が確保されていない。学校全体の取り組みとして、目標を持って計画的に定期考査学習に取り組ませ、学習時間を記録し、振り返ることで日々の学習の質・量を向上させたい。	【満足度指標】 主体的に学習する態度を育成するために、学習目標をもって臨ませる。その際、2週間前から学習時間を記録し、考査後に振り返ることで、学習の質をより良いものになるよう指導していく。	**学校評価のアンケート質問5「定期考査の振り返りを次の考査に生かせている」項目で、「4：よくあてはまる」「3：ややあてはまる」と選ぶ生徒の割合が** **A　80%以上　　B　70%以上** **C　60%以上　　D　60%未満**	7月に実施した学校評価のアンケートでは、「4：よくあてはまる」「3：ややあてはまる」と選んだ生徒の割合は、1年生48.9%　2年生21.2%　3年生69.4%となった。 生徒は考査ごとに考査に向けての計画を立て、考査の成績の結果も含めた計画の振り返りをしている。 教員や生徒の声も取り入れながら方法や様式の改善を図って取り組みを継続していく。	C (60.4%)	**D (59.1%)**	**7月→12月に実施した学校評価のアンケートでは、「4：よくあてはまる」「3：ややあてはまる」と選んだ生徒の割合は、1年生48.9→46.1%　2年生21.2→56.1%　3年生69.4→75.2%となった。 学年が上がるにつれて、日々の学習や考査の勉強が将来の進路につながっていくことがわかっていくようだが、考査成績の結果も含めた計画の振り返りが大切なことも今後も生徒に伝えていきたい。**	学校評価 アンケート	
		2	**ICT機器、学習支援アプリ（Classiなど）の学習ツールを積極的に活用することで、工夫された授業を展開し、個別最適な学習や協働性・表現力の育成を図る。**	教務課	現在の学びの中で、協働性・表現力を育む教育にはICT機器、学習支援アプリの学習ツールを利用することが非常に有効であり、ICT機器を活用して生徒の協働する力、発表する力を伸ばしたい。	【努力指標】 生徒が主体的に学習を進める態度を育む授業を行い、生徒の表現力・発信力を高めている。	**生徒の表現力を伸ばすためにICT機器を有効に活用した授業を行う。授業評価のアンケートで「他の生徒の意見を知ったり、発表を見たりして、協働的に学ぶ機会を設けている」の項目で「4：よくあてはまる」「3：ややあてはまる」と選ぶ教職員の割合が** **A　90%以上　　B　80%以上** **C　60%以上　　D　60%未満**	7月に実施した学校評価のアンケートでは、「4：よくあてはまる」と選んだ教職員の割合は、94.5%であった。 iPadを教員だけではなく生徒も授業にうまく活用していることから現在の取り組みを継続し、より良い活用方法を教員間で共有していく。	A (94.5%)	**A (96.6%)**	**7月→12月に実施した学校評価のアンケートでは、「4：よくあてはまる」と選んだ教職員の割合は、94.5→96.6%であった。 iPadを教員だけではなく生徒も授業にうまく活用していることから現在の取り組みを継続し、より良い活用方法を今後も教員間で共有していく。**	学校評価 アンケート	
		3	**「総合的な探究の時間」における個人発表やグループ発表、フィールドワーク等を通して、生徒の表現力を育成する。**	教務課	昨年度授業や総合的な探究の時間における個人発表やグループ発表を通して、話したり発表したりする力がついてきたと感じる生徒は、8割程度いる。グループ発表やフィールドワークを通して、生徒の表現力を伸ばしていく。	【満足度指標】 総合的な探究の時間において、主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長している。	**総合的な探究の時間における生徒の主体的な取り組みを通して、生徒の表現力や自己発信力が成長したと思う（よくあてはまる、ややあてはまる）教員の割合が** **A　90%以上　　B　80%以上** **C　60%以上　　D　60%未満**	（よくあてはまる、ややあてはまると回答した）生徒・教職員の割合は、生徒79.8%　教職員82.8%であった。 今後発表する機会があるので、生徒の表現力や発信力が十分に発揮できるよう指導していく。	生徒C (79.8%) 教職員B (82.8%)	**生徒B (80.4%) 教職員C (78.6%)**	**（よくあてはまる、ややあてはまると回答した） 生徒・教職員の割合は、 生徒79.8→80.4% 教職員82.8→78.6%であった。 1年を通して、学年末にも発表する機会があるので、生徒の表現力や発信力が十分に発揮できるよう指導していく。**	学校評価 アンケート	
		4	**大学入学共通テストに対応できるように、1，2年生のうちに生徒の大学進学意識を向上させ、学力の定着を目指す。また、成績上位層から中間層の生徒を増やし伸ばすべく、模試分析に基づいた授業改善を行い、学力向上を目指す。**	進路 指導課 1学年 2学年	1年生では、進路希望を念頭に置いて文理選択できるよう指導するとともに、学力伸長に向けて継続的に努力するよう指導している。2年生では、具体的な目標を持たせ、様々な進路希望、学力層に応じた学習指導をしている。1，2年生で大学受験に対応できる基礎学力をつける必要がある。	【成果指標】 学年終了時までに組織的、系統的な指導によって学力が伸び、大学受験の基礎が築かれている。	**模試による国語・数学・英語の各偏差値が50以上の生徒数が** **国語：A　40人以上　B　35人以上** **　　C　30人以上　D　30人未満** **数学：A　30人以上　B　25人以上** **　　C　20人以上　D　20人未満** **英語：A　30人以上　B　25人以上** **　　C　20人以上　D　20人未満**	7月進研記述模試の結果がまだ公開されておらず人数の把握は出来ていないが、数学と英語に関しては基礎基本の定着が課題となる。 模試分析による授業改善などを通じて学力向上を図り、11月模試、1月模試で成績上位層の人数を増やしていきたい。	年度末に 評価	**1年 国語 D 数学 D 英語 D 2年 国語 C 数学 D 英語 C**	**偏差値50以上の人数の推移（7月→11月→1月） 1年生　国語17名→16名→27名 　　数学19名→14名→19名 　　英語9名→17名→14名 2年生　国語41名→38名→32名 　　数学13名→12名→8名 　　英語18名→15名→21名 成績上位者の数を増やすために、中間層上位の生徒に対する取り組みの工夫が必要である。また、全体の底上げを目指して基礎基本の定着を図りたい。**	進研模試	
		5	**キャリア教育を通じて高い志を持たせるとともに、進路実現に向けて粘り強く学び続けるよう支援する。**	進路 指導課 3学年	ここ数年、大学進学希望者が増加傾向にある。一方で、コロナ禍の影響で全県的に県内志向が強まり、国公立大学も私立大学も県内大学への入学が難化している。全国を視野に入れて挑戦する姿勢を育てる必要がある。	【成果指標】 自らの生き方や将来に対して高い意識を持つ生徒が、授業や補習、個別指導等を通して学力を伸ばし、国公立大学に現役で合格している。	**国公立大学現役合格者数が** **A　20人以上** **B　15人以上** **C　10人以上** **D　10人未満**	3年生進路希望調査では、国公立大学に47名が志望している。各大学の受験情報を把握し、個別の受験指導を充実させて、進路実現を図る。また学校推薦型選抜での受験を希望いている生徒もいるので、個別での指導を充実させていく。ここまで進学補習や学習会、模擬試験を通じて学習の質、量ともに上げていくよう指導してきた。国公立大学の志望者が最後まであきらめずに努力を続けていけるように、面談や個別指導を充実させたい。	年度末に 評価	**C （10名） 2月1日現在**	**国公立大学の学校推薦型選抜と総合型選抜の合格者数は、富山大学1名、公立小松大学8名、金沢美術工芸大学1名だった。これから一般選抜に21名が挑戦する。志望校合格を期待したい。**	国公立大学 現役合格者数	
2	グローバル社会に対応できる自己発信力を高める。特に英語によるコミュニケーション能力を育成し、英語力向上を図る。	1	**英検資格取得にむけて、受検級別に十分な対策をたてる必要がある。計画的に勉強に向えるよう、英検講座を実施し、2年次における実用英語技能検定や12月GTECのスコアアップを目指す。**	教務課 進路 指導課 英語科	昨年は卒業時の到達レベル人数で評価してきたが、3年次においては模試や大学受験があり英検の受検は難しくなる。生徒の資格取得に向けた英語スキルアップを1，2年次のうちに行っていく必要がある。	【成果指標】 実用英語技能検定およびGTECの受検を通して、2年次修了までに50%の生徒がCEFR　A2レベルに到達することを目標にして、五領域のスキルアップを目指す。	**2年次修了までにCEFRA2レベル以上の生徒が** **A　100人以上** **B　80人以上** **C　60人以上** **D　60人未満**	現2年生150名中、1年12月のGTECにおいて、CEFR-A2レベルの評価を受けている生徒は47名であった。英検に関しては、10月8日に行われる実用英語技能検定の結果待ちである。また、実用英語技能検定に関しては、1月にも行われるので、10月の検定で不合格となった生徒にも、再度のチャレンジを促していきたい。	年度末に 評価	**B （84名）**	**　現2年生の中で、12月GTECで76名と10月英検で31名である。双方での重複している生徒もいるので、学年全体としてCEFR-A2レベル（英検準2級）以上の評価を受けている生徒は84名である。 　進学時に英語の資格が必要となるケースは年々増加していくことが見込まれるため、今後も生徒の資格取得をサポートできる体制を構築して行きたい。**		
3	生徒一人ひとりの品格を高め、規範意識と社会性を身に付けさせるとともに、急速に変化する多様な社会に対応できる主体性を育む。	1	**品位ある服装、爽やかな挨拶、時間厳守など、進路実現に直結する生活姿勢の改善に生徒自らが意識して取り組むよう指導する。遅刻をなくすために、年間を通し職員による登校指導や生徒の個別指導を行う。**	生徒課	制服を正しく着こなす生徒は増えているが、まだ十分ではない。遅刻者の件数は減少傾向にあるが、常習的に遅刻する生徒がいる。	【成果指標】 1日の生徒の遅刻者の平均人数から判断する。	**1日の生徒の遅刻者の平均人数が** **A　1人以下　　B　3人以下** **C　5人以下　　D　6人以上**	8時25分からの朝学習で落ち着いて学習できるように、8時20分までに登校し、速やかに教室に向かうように指導した。1学期の1日平均の遅刻数は2.6人であった。昨年度よりも増加している。遅刻の多い生徒は個別指導を行うなどしており、成果も出ているが、数名の生徒の改善が見られない。今後も粘り強く指導していく。	B(2.6名) 1年0.5名 2年0.6名 3年1.5名	**B(2.4名)**	**1日平均の遅刻数は2.4名（1年0.8名、2年0.5名、3年1.1名）であった。中間評価よりも増加している。体調不良が理由の生徒の遅刻が増加しているが、寝坊などの理由の生徒もいるので、今後も指導を続けていく。**		
		2	**品位ある服装、爽やかな挨拶、時間厳守など、進路実現に直結する生活姿勢の改善に生徒自らが意識して取り組むよう指導する。遅刻をなくすために、年間を通し職員による登校指導や生徒の個別指導を行う。**	生徒課		【満足度指標】 制服の着こなしに対する、教職員評価から判断する。	**「生徒は制服を正しく着ている」という項目に対し、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員の割合が** **A　80%以上　B　70%以上** **C　60%以上　D　60%未満**	学校評価教職員アンケートでは、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員は77．8%であった。昨年度の中間アンケートよりも増加している。制服指導強化週間などを行ったこともあり、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と答えた教職員は100%であった。今後も教員全体での共通指導と生徒の意識改革を図って行きたい。	B(77.8%)	**C(65.5%)**	**学校評価教職員アンケートでは、「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた教職員は65．5%であった。昨年度よりも増加しているが、今年度の中間アンケートよりも減少した。今後は制服指導週間などで、より教員全体での共通指導と生徒の意識改革を図って行きたい。**		
4	芸術コース及び部による地域貢献活動を積極的に行い、小松市民に愛される学校をめざす。	1	**部活動をさらに活性化し、校内外の発表やボランティア活動等に積極的に取り組む。**	生徒課	コロナ禍により、校内外での発表やボランティア活動等の機会がほとんどなかった。	【努力指標】 部の発表や活動を通して生徒の発信力が養われる。	**すべての部による発表やボランティア活動等の実施回数がのべ** **A　35回以上　B　30回以上** **C　20回以上　D　20回未満**	部活動の発表やボランティアなどの活動は再開されている。積極的に活動に取り組んでいる。	年度末に 評価	**A （45回）**	**以前の状態の活動が行えるようになり、積極的に取り組みを行っている。**		
		2	**芸術コース入学希望者の確保のために、本校専攻生による出身中学校訪問・部活指導等、生徒主体の情宣活動を行うとともに、教員による体験入学希望者確保のため中学校訪問を行う。**	芸術 コース	コロナ禍により多くの行事が中止となっていたが、ようやく様々なり行事が戻りつつある。より積極的に対外行事に参加していくことと合わせて、新しい生活様式を意識した発信方法の工夫を行っていきたい。	【努力指標】 新しい生活様式を意識した発信方法の工夫を通して、芸術コースからの発信力が高まり、中学校の芸術コースに対する興味関心が向上している。	**11月の芸術コース体験入学参加者数が** **A　60名以上** **B　59～50名** **C　49～40名** **D　39名以下**	7月開催の体験入学では音美希望者が非常に多かった。 9月以降は中学校側に向けて積極的に情宣活動を行い、11月の芸術コース体験入学に繋げたい。	年度末に 評価	**B （51名）**	**今年度はコロナによる規制が大幅に緩和され、多くの行事や地域貢献活動を行うことができた。 今年度の芸術コース体験入学参加者数はA評価には届かなかったが、このような活動を続けていくことで次年度以降の増加が期待できると考えている。 今後も地域に愛される芸術コースを目指し活動をしていきたい。**		
5	教職員の協働する力を高め、校務の効率化を図り、心身ともに健康な職場作りを行う。	1	**超過勤務の時間を減らし、職員の心身の健康を守り、よりよい教育活動を行う基礎を確立する。そのために、会議の数を最小限に止め、またICT機器の有効活用に努める。**	教頭	昨年度の超過勤務（80時間）を越えた職員の延べ人数は、年間で合計6名であった。大部分の職員はワークアンドライフバランスに努めているが、修学旅行や部活動業務での超過勤務となっている。	【努力指標】 「定時退庁日」「ノー残業デー」をはじめ、日頃から業務の効率化を意識し、勤務時間内で業務が終了するよう努力する。	**超過勤務80時間を越える職員の割合が、** **A　2%未満** **B　2～4%** **C　4～6%** **D　6%以上**	第Ⅰ期（4～6月）の統計では超過勤務80時間を超える教職員の数は以下の通り。 4月：2名　5月：0名　6月：2名　計4名　であった。 4月は部活動遠征、6月は修学旅行と部活動指導業務に係る対象者であった。 今後も業務の効率化を図っていきたい。	B (3.4%)	**B （3.4%）**	**第Ⅲ期（4～1月）の統計では超過勤務80時間を超える教職員の数は以下の通り。 4月：2名　6月：2名　7月：4名　8月：1名 10月：1名　11月：2名　計12名　であった。 超過勤務内容は部活動指導業務や修学旅行引率業務であった。 次年度も業務の効率化を図っていきたい。**		